

昭和大学医学部(Ⅱ期) 数学

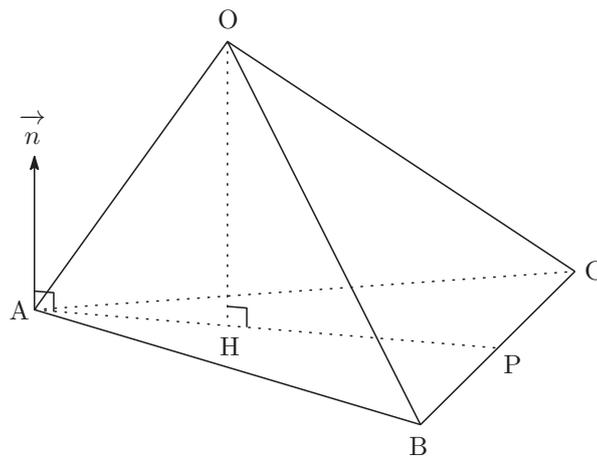
2022年 3月5日実施

1

座標空間において、 $O(0, 0, 0)$, $A(1, -1, -1)$, $B(2, 0, 2)$, $C(2, 2, 0)$ を頂点とする四面体がある。点 O から $\triangle ABC$ が作る平面に向かって垂線 OH を下ろす。線分 AH の延長と線分 BC の交点を P とする。次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみを解答欄に記入せよ。

- (1) 点 H の座標を求めよ。
- (2) 四面体の体積 V を求めよ。
- (3) 線分 AH と線分 HP の長さの比 $AH:HP$ を求めよ。
- (4) 点 P の座標を求めよ。

解答



(1) $\vec{AB} \times \vec{AC} = (-8, 2, 2) // (-4, 1, 1)$ ($= \vec{n}$ とする)

このとき、 \vec{OH} は \vec{OA} の \vec{n} 上への正射影ベクトルであるから

$$\begin{aligned}
 \vec{OH} &= \frac{\vec{OA} \cdot \vec{n}}{|\vec{n}|^2} \vec{n} \\
 &= -\frac{1}{3}(-4, 1, 1) \\
 &= \left(\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{1}{3}\right)
 \end{aligned}$$

よって、 $H\left(\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{1}{3}\right)$ である。

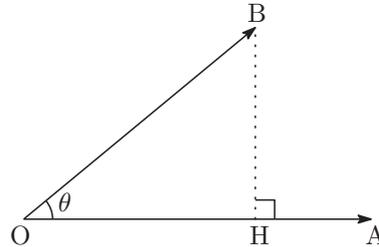
(参考) 正射影ベクトル

下図の3点 O, A, B について、点 A から下ろした直線 OB 上に下ろした垂線の足を H とすると、 \vec{OH} は、 \vec{OB}

の \vec{OA} 上への正射影ベクトルと言い、

$$\vec{OH} = \frac{\vec{OA} \cdot \vec{OB}}{|\vec{OA}|^2} \vec{OA}$$

と書ける。(\vec{OA} が逆向きのときも成立する。)



なお、次のように証明できる。

$$\begin{aligned} \vec{OH} &= |\vec{OB}| \cos \theta \cdot \frac{\vec{OA}}{|\vec{OA}|} \\ &= \frac{\vec{OA} \cdot \vec{OB}}{|\vec{OA}|} \cdot \frac{\vec{OA}}{|\vec{OA}|} \quad (\because \vec{OA} \cdot \vec{OB} = |\vec{OA}| |\vec{OB}| \cos \theta) \\ &= \frac{\vec{OA} \cdot \vec{OB}}{|\vec{OA}|^2} \vec{OA} \end{aligned}$$

(別解) 点Hは平面 ABC 上の点であるから、実数 s, t を用いて

$$\begin{aligned} \vec{OH} &= (1 - s - t)\vec{OA} + s\vec{OB} + t\vec{OC} \\ &= (1 + s + t, -1 + s + 3t, -1 + 3s + t) \end{aligned}$$

$\vec{OH} \perp$ 平面 ABC より $\vec{OH} \perp \vec{AB}$, かつ $\vec{OH} \perp \vec{AC}$ であるから

$$\begin{aligned} \vec{OH} \cdot \vec{AB} &= 0, \text{ かつ } \vec{OH} \cdot \vec{AC} = 0 \\ \Leftrightarrow 11s + 7t &= 3, \text{ かつ } 7s + 11t = 3 \\ \Leftrightarrow s &= \frac{1}{6}, \text{ かつ } t = \frac{1}{6} \end{aligned}$$

よって、 $\vec{OH} = \left(\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{1}{3} \right)$ より $H \left(\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}, -\frac{1}{3} \right)$ である。

(2)

$$V = \frac{1}{6} |(\vec{OA} \times \vec{OB}) \cdot \vec{OC}| = \frac{1}{6} |(-2, -4, 2) \cdot (2, 2, 0)| = 2$$

(別解)

$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{3} \cdot \Delta ABC \cdot |\vec{OH}| \\ &= \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{AB}|^2 |\vec{AC}|^2 - (\vec{AB} \cdot \vec{AC})^2} \cdot \frac{1}{3} \sqrt{4^2 + (-1)^2 + (-1)^2} \\ &= \frac{1}{18} \sqrt{11 \cdot 11 - 7^2} \sqrt{18} = 2 \end{aligned}$$

(3) 点 P は直線 AH 上の点であるので、実数 k を用いて

$$\overrightarrow{AP} = k\overrightarrow{AH} = \left(\frac{k}{3}, \frac{2k}{3}, \frac{2k}{3} \right)$$

また点 P は直線 BC 上の点でもあるので、 $BP : PC = t : 1 - t$ (t は実数) とすると

$$\overrightarrow{AP} = (1 - t)\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AC} = (1, 1 + 2t, 3 - 2t)$$

したがって

$$\begin{aligned} \frac{k}{3} &= 1, \text{ かつ } \frac{2k}{3} = 1 + 2t, \text{ かつ } \frac{2k}{3} = 3 - 2t \\ \Leftrightarrow k &= 3, \text{ かつ } t = \frac{1}{2} \end{aligned}$$

よって、 $\overrightarrow{AP} = 3\overrightarrow{AH}$ より $AH:HP = 1 : 2$ である。

(4) (3) より $\overrightarrow{AP} = (1, 2, 2)$ なので、 $\overrightarrow{OP} = (2, 1, 1)$ である。よって、 $P(2, 1, 1)$ である。

2

次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみ解答欄に記入せよ。

- (1) 関係式 $2^a = 3$, $3^b = 5$, $6^c = 10$ が与えられたとき、 c を a , b を用いて表せ。
 (2) 4種類の数字 0, 1, 2, 3 を用いて表現された自然数を、次のように小さい方から順に並べる。

2, 10, 12, 20, 22, 30, 32, 100, 102, 110, 112, 120, 122, 130, 132, 200, …

次の問いに答えよ。

- (a) 第 1489 項目の数値はいくつか。 (b) 2022 が現れるは第何項目か。
 (3) $n = 14^{100}$ とし、 n の最高位の数字を a とする。次の各問いに答えよ。なお、必要に応じて下記対数表を用いること。
 (a) n の桁数を求めよ。 (b) a の値を求めよ。
 (c) $a \times n$ を 15 で割った余りを求めよ。

$\log_{10} 2 = 0.3010$ $\log_{10} 3 = 0.4771$ $\log_{10} 4 = 0.6021$ $\log_{10} 5 = 0.6990$
 $\log_{10} 6 = 0.7782$ $\log_{10} 7 = 0.8451$ $\log_{10} 8 = 0.9031$ $\log_{10} 9 = 0.9542$

解答

- (1) 条件より、

$$\begin{cases} a = \log_2 3 & \therefore \log_2 3 = a \\ b = \log_3 5 = \frac{\log_2 5}{\log_2 3} = \frac{\log_2 5}{a} & \therefore \log_2 5 = ab \end{cases}$$

であるから、

$$\begin{aligned} c &= \log_6 10 = \frac{\log_2 10}{\log_2 6} \\ &= \frac{\log_2 2 + \log_2 5}{\log_2 2 + \log_2 3} \\ &= \frac{1 + ab}{1 + a} \end{aligned}$$

- (2) 与えられた数列は、正の偶数の列

2, 4, 6, 8, ……

を 4 進法に直して並べた数列と解釈できる。

- (a) 1489 番目の正の偶数は $2 \times 1489 = 2978$ であり、
 2978 を 4 進法で表すと、

$$\begin{aligned} 2978 &= 2 \cdot 4^5 + 3 \cdot 4^4 + 2 \cdot 4^3 + 2 \cdot 4^2 + 0 \cdot 4 + 2 \\ &= 232202_{(4)} \end{aligned}$$

であるから、与えられた数列の第 1489 番目の数は **232202**

- (b) 4 進法で 2022 と表される数は、10 進法で表すと

$$2022_{(4)} = 2 \cdot 4^3 + 0 \cdot 4^2 + 2 \cdot 4 + 2 = 138$$

であり、

138 は 69 番目の正の偶数であるから、

2022 は第 **69** 項目である。

$$\begin{aligned}
 (3) \text{ (a)} \quad \log_{10} n &= \log_{10} 14^{100} = 100 \log_{10} 14 \\
 &= 100(\log_{10} 2 + \log_{10} 7) \\
 &= 100(0.3010 + 0.8451) = 114.61
 \end{aligned}$$

であるから

$$114 < \log_{10} n < 115$$

$$\therefore 10^{114} < n < 10^{115}$$

とわかるので、 n は **115** 桁 の数である。

(b) 最高位の数が a なので、

$$a \times 10^{114} \leq n < (a+1) \times 10^{114}$$

$$\log_{10} a + 114 \leq \log_{10} n < \log_{10}(a+1) + 114$$

$$\log_{10} a \leq 114.61 < \log_{10}(a+1) + 114$$

$$\therefore \log_{10} a \leq 0.61 < \log_{10}(a+1) \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

となるが、対数表より $\textcircled{1}$ を満たす a は **$a = 4$** である。

$$(c) \quad a \times n = 4 \times 14^{100}$$

$$\equiv 4 \times (-1)^{100} \pmod{15} \quad (\because 14 \equiv -1 \pmod{15})$$

$$= 4 \times 1$$

$$= 4$$

であるから、 $a \times n$ を 15 で割った余りは **4** である。

3

次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみを解答欄に記入せよ。

(1) (1) 次の各定積分の値を求めよ。

$$I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \sin x dx$$

$$I_2 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \cos x dx$$

$$I_3 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x^2 \cos x dx$$

(2) 不等式 $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$, $\sin x \leq y \leq 1$ をみたす点 (x, y) の存在する範囲を x 軸のまわりに回転してえられる立体の体積を V_1 , y 軸のまわりに回転してえられる立体の体積を V_2 とする。 V_1, V_2 をそれぞれ求めよ。

解答

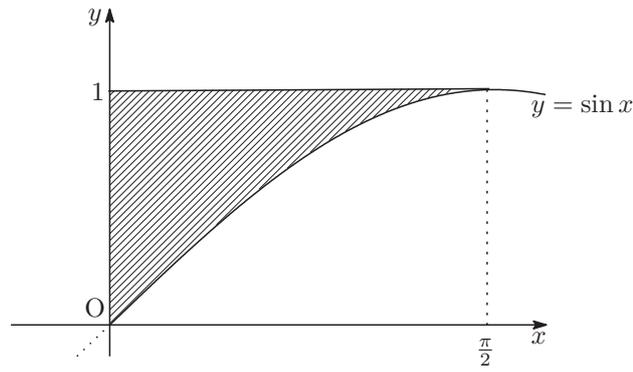
(1) 部分積分を考える。

$$\begin{aligned} I_1 &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \sin x dx = - \int_0^{\frac{\pi}{2}} x(\cos x)' dx \\ &= - \left[x \cos x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} + \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos x dx \\ &= 0 + \left[\sin x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= \mathbf{1} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} I_2 &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \cos x dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x(\sin x)' dx \\ &= \left[x \sin x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} - \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin x dx \\ &= \frac{\pi}{2} + \left[\cos x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= \frac{\pi}{2} - \mathbf{1} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} I_3 &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} x^2 \cos x dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x^2(\sin x)' dx \\ &= \left[x^2 \sin x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} - \int_0^{\frac{\pi}{2}} 2x \sin x dx \\ &= \frac{\pi^2}{4} - 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \sin x dx \\ &= \frac{\pi^2}{4} - \mathbf{2} \quad \left(\because I_1 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \sin x dx = 1 \right) \end{aligned}$$

(2)

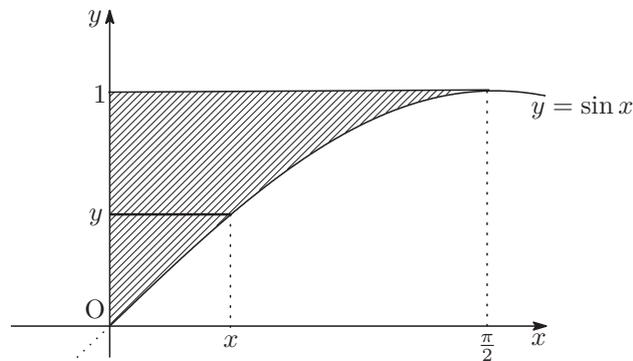


$$V_1 = \pi \int_0^{\frac{\pi}{2}} (1^2 - \sin^2 x) dx$$

よって

$$\begin{aligned} \frac{V_1}{\pi} &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} dx - \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^2 x dx \\ &= \frac{\pi}{2} - \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1 - \cos 2x}{2} dx \\ &= \frac{\pi}{2} - \frac{1}{2} \left[x - \frac{\sin 2x}{2} \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= \frac{\pi}{2} - \frac{\pi}{4} = \frac{\pi}{4} \end{aligned}$$

したがって、 $V_1 = \frac{\pi^2}{4}$ である。



$$V_2 = \pi \int_{y=0}^{y=1} x^2 dy$$

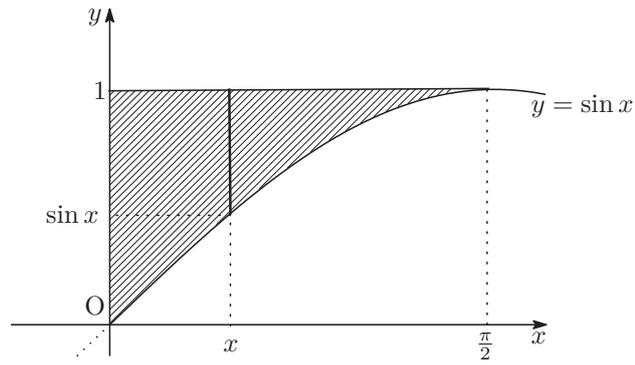
ここで、 $y = \sin x$ より $dy = \cos x dx$ であり、 x, y の対応関係は次のようになる。

y	$0 \rightarrow 1$
x	$0 \rightarrow \frac{\pi}{2}$

よって、 $\frac{V_2}{\pi} = \int_0^{\frac{\pi}{2}} x^2 \cos x dx = \frac{\pi^2}{4} - 2$ (\because (1))

したがって、 $V_2 = \frac{\pi^3}{4} - 2\pi$ である。

(別解) バウムクーヘン積分



$$V_2 = \int_0^{\frac{\pi}{2}} 2\pi x(1 - \sin x) dx$$

よって

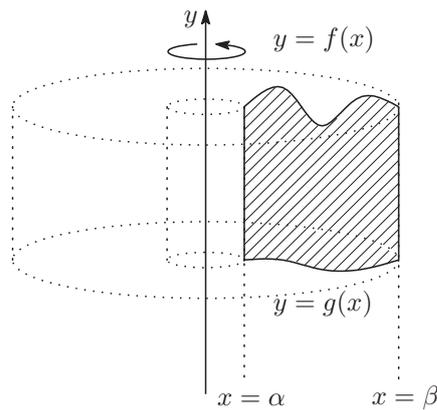
$$\begin{aligned} \frac{V_2}{2\pi} &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} x dx - \int_0^{\frac{\pi}{2}} x \sin x dx \\ &= \left[\frac{x^2}{2} \right]_0^{\frac{\pi}{2}} - 1 \\ &= \frac{\pi^2}{8} - 1 \end{aligned}$$

したがって、 $V_2 = \frac{\pi^3}{4} - 2\pi$ である。

(参考) バウムクーヘン分割

下図の斜線部分を y 軸まわりに回転してできる立体の体積 V_y は

$$V_y = \int_{\alpha}^{\beta} 2\pi x |f(x) - g(x)| dx$$



4

次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみを解答欄に記入せよ。

(1) 1個のサイコロをくり返し振る試行について、次の問いに答えよ。

サイコロは、1から6までのどの目が出ることも同様に確からしいものとする。

(1-1) 1の目が2回出れば試行を終えることにする。ちょうど5回振って試行を終える確率を求めよ。

(1-2) 1の目が連続して2回出れば試行を終えることにする。ちょうど5回振って試行を終える確率を求めよ。

(2) ある工場では、作られる製品のうち p ($0 < p < 1$) の確率で不良品が発生するという。ある程度たくさんの製品が生産された時点で検査を行い、それに合格すれば一斉に出荷する。検査方法として

A: 4個抜き出して検査し、不良品が1個以下なら合格

B: 7個抜き出して検査し、不良品が2個以下なら合格

という2つの方法を考えた。

(2-1) A, B それぞれにつき、検査で合格する確率を求めよ。

(2-2) A のほうが合格しやすいのは p の値がどのような範囲のときか。

解答

(1)(1-1) 1の目が2回出れば試行を終えることにするとき、ちょうど5回振って試行を終えるのは、1~4回目に1の目が1回、2~6の目が3回出て、5回目に1の目が出るときであるから、求める確率は

$${}^4C_1 \cdot \frac{1}{6} \left(\frac{5}{6}\right)^3 \times \frac{1}{6} = \frac{125}{1944}$$

(1-2) 1の目が連続して2回出れば試行を終えることにするとき、ちょうど5回振って試行を終えるのは、1, 2回目に1の目が連続して出ることがなく、3回目に2~6の目が出て、4, 5回目に1の目が連続して出るときであるから、求める確率は

$$\left\{1 - \left(\frac{1}{6}\right)^2\right\} \times \frac{5}{6} \times \left(\frac{1}{6}\right)^2 = \frac{175}{7776}$$

(2)(2-1) 検査 A で合格するのは、4個の製品のうち不良品が0個または1個のときであるから、その確率 $P(A)$ は

$$\begin{aligned} P(A) &= (1-p)^4 + {}^4C_1 p(1-p)^3 \\ &= (1-p)^3 \{(1-p) + 4p\} \\ &= (1-p)^3 (1+3p) \end{aligned}$$

また検査 B で合格するのは、7個の製品のうち不良品が0個または1個または2個のときであるから、その確率 $P(B)$ は

$$\begin{aligned} P(B) &= (1-p)^7 + {}^7C_1 p(1-p)^6 + {}^7C_2 p^2(1-p)^5 \\ &= (1-p)^5 \{(1-p)^2 + 7p(1-p) + 21p^2\} \\ &= (1-p)^5 (1+5p+15p^2) \end{aligned}$$

(2-2) $P(A) > P(B)$ となる p の値の範囲を考える。(2-1) より

$$\begin{aligned}P(A) > P(B) &\iff (1-p)^3(1+3p) > (1-p)^5(1+5p+15p^2) \\&\iff 1+3p > (1-p)^2(1+5p+15p^2) \quad (\because (1-p)^3 > 0) \\&\iff p^2(15p^2 - 25p + 6) < 0 \\&\iff 15p^2 - 25p + 6 < 0 \quad (\because p^2 > 0) \\&\iff \frac{25 - \sqrt{265}}{30} < p < \frac{25 + \sqrt{265}}{30}\end{aligned}$$

よって, $0 < p < 1$ と併せて

$$\frac{25 - \sqrt{265}}{30} < p < 1$$

講評

1 [空間図形] (やや易)

四面体の体積，交点の位置ベクトルからの出題であった。いずれも入試基礎レベルであるので，計算ミスに注意して進めたい。

2 [小問集合] (標準)

対数の変換，4進法，桁数・最高位からの出題であった。(2)が見慣れず，ルールを発見するのに戸惑った受験生はいたであろう。他は入試基礎レベルの問題である。

3 [数Ⅲ積分法] (標準)

部分積分， x 軸・ y 軸まわりの回転体に関する問題であった。いずれも入試基礎レベルであるので，計算ミスに注意して進めたい。

4 [確率] (標準)

確率からの出題であった。特に難しいところはなく，計算ミスに注意して進めたい。

I期に引き続き，全体的に易化傾向にある。捻った出題もなく，素直な問題ばかりであるので，高得点勝負になるだろう。一次突破ラインは65%程度か。

LINE登録で全教科配信！

本解答速報の内容に関するお問合せは…

YMS ☎03-3370-0410 まで

医学部進学予備校 **メビオ**
☎0120-146-156 <https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校
YMS
heart of medicine
☎03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>

医学部専門予備校
英進館メビオ 福岡校
☎0120-192-215 <https://www.mebio-eishinkan.com/>



▲LINE登録はこちらから